# 令和２年度　大阪市立水都国際高等学校　運営に関する計画
# 年度評価　総括

（様式１）

大阪市立水都国際高等学校　　令和２年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム（IBDP）の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において英語を用いた授業を実施している。

しかしながら、入学してきた生徒の英語力の差は大きく、教員間で英語に課題がある生徒のサポート体制の構築を進めてはいるが、こうした課題をどのように解決していくのかが喫緊の問題である。また、多様なバックグラウンドを持つ教職員と本校の教育理念を共有し、生徒たちと共に学校の文化を創っていく取り組みを進めている。

中期目標

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 令和 3 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 90%にすることをめざす。
- 令和 3 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 90%にすることをめざす。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

- 令和 3 年度の大阪市英語力調査における、高等学校卒業段階での英検 2 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 80%以上にする。
- 令和 3 年度の大阪市英語力調査における、高等学校卒業段階での英検準 1 級レベル以上の英語力を有する生徒の割合を 50%以上にする。
- 令和 3 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 90%以上にする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

① 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。

② 校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。

③ 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

④ 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

⑤ 令和 2 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70%にすることをめざす。

⑥ 令和 2 年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を全体の 70%にすることをめざす。

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

① 令和 2 年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。

② 令和 2 年度末における授業アンケートで「探究的な授業または探究的な活動に自分が参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。

③ 令和 2 年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。

④ 令和 2 年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。

⑤ グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を受け、教育を実践していく。

⑥ グローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領とが両立するように、教育課程を編成し、実践していく。

⑦ 英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の伸長を目指す。

⑧ 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にしていく。

3　本年度の自己評価結果の総括

昨年度末から今年度の４、５月まで全市的に休校措置が取られていたが、本校においては、生徒の学びを止めないために４月からオンライン授業の実施に踏み切った。オンライン授業およびハイブリッド授業（対面授業とオンライン授業の併用）を行ったことにより、すべての学年において授業の遅れは生じなかった。また、オンライン授業においても、教員は主体的・対話的で深い学びの充実を図ることができた。

コロナ禍の生徒に対する精神的ケアについては、オンライン授業の開始と同時にオンラインでの個別面談を実施し、生徒の不安を取り除くサポートを展開した。12 月の三者面談においても、生徒・保護者がオンラインか対面かを選択する形とし、安心して面談に臨めるよう工夫した。

学力保障の観点においては、大学入試に対応する学力の定着に向けて、12 月から希望者を対象に数学の放課後補習を開始した。英語についても、苦手意識を持つ高校 1 年生を対象に放課後補習を開始した。

生徒の英語力については、本校で実施している TOEFL Junior の結果を基にまとめる。

・高校１年生における A2 レベル（英検準２級～２級）以上の生徒の割合
　リスニング 88%、グラマー100%、リーディング 96%
・高校２年生における A2 レベル（英検準２級～２級）以上の生徒の割合
　リスニング 88%、グラマー100%、リーディング 95%

今後、B1 レベル（英検２級～準１級）以上の生徒の割合を増加させることをめざす。

様式２

大阪市立　（水都国際高等学校）令和２年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 | Ａ：目標を上回って達成した | Ｂ：目標どおりに達成した |
|---|---|---|
| | Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった | Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|---|
| **【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**<br>①　年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。<br>②　校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。<br>③　年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。<br>④　年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。<br>⑤　令和２年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」と答える生徒の割合を全体の 70%を目指す。<br>⑥　令和２年度末の生徒アンケートにおいて、「この学校では中高一貫教育の特色が生かされた学校生活を送ることができる」と答える生徒の割合を、全体の 70%を目指す。 | C |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
| --- | --- |
| 取組内容①【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】<br>○　防災・減災教育の推進<br>南海トラフ地震を想定した地震及び津波に関する知識を深め、自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を養う。 区と連携した防災カリキュラム作成・活用の推進を行う。<br><br>指標<br>・　火災・震災を想定した防火訓練、防災訓練をそれぞれ年に１回実施する。<br>・　登下校報告書を生徒に作成させる。 | B |
| 取組内容②【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】<br>○　安全教育の推進<br>安全（防犯）に対する心構えなどの指導を計画的に、継続的に実施し、安全確保のために必要な事項を実践的に理解できるようにする。<br><br>指標<br>・　インターネット、SNS 等に関するオリエンテーション、継続的指導を実施する。<br>・　不審者対応に関する講演会、または研修等を年に１回以上実施する。 | B |
| 取組内容③【施策２：道徳心・社会性の育成】<br>○　道徳教育の推進<br>LEGO® SERIOUS PLAY®のメソッドと教材を活用したワークショップを通して、一人ひとりの個性を認め、自己表現のスキルを伸ばし、異文化理解を深めるカリキュラムを作成していく。<br><br>指標<br>・　道徳教育推進委員を中心に「特別の教科　道徳」のカリキュラムを作成し、実践する。 | C |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
| --- |
| 【子どもが安心して成長できる安全な社会の実現】<br>いじめに対する意識アンケートを実施した。結果を踏まえて、生徒指導主事・学年団と連携し、個々の生徒への対応及び家庭との連携による指導を行った。その結果、学校で認知したいじめについて、解消した割合は 100%となっている。また、生徒が中心となり「いじめについて考える日」において、全生徒への授業を年に３度実施しただけでなく、ピンクシャツデー（いじめをなくす啓発運動）を実施し、教職員・生徒一人ひとりのいじめ及び人権に対する意識向上を図ってきた。<br><br>【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】<br>・ 防災訓練を９月、防火訓練を２月、消火訓練を３月（予定）に実施した。区や消防署と連携し、防災カリキュラム作成・活用を進めていっている。<br><br>【施策１：安全で安心できる学校、教育環境の実現】<br>・ 特別活動の時間を通して、教育委員会や文科省から例示されている資料を活用し、インターネット、SNS 等に関するオリエンテーションを、生徒へ継続的に行っている。<br>・ 「生徒が安全で安心できる学校、教育環境の実現」に関して、Child protection policy を策定し、その内容について、教員を対象に研修を行った。<br><br>【施策２：道徳心・社会性の育成】<br>・ 高校においては、道徳は各教科内の単元等を通して、生徒に考えてもらう形になる。また、学校行事を通して、生徒目線だけではなく、行事を運営する視点からも、道徳心や社会性を養うことができた。また、総合的な探究の時間や、グローバルイシューの時間に学んでいる TOK を通し、批判的思考力も養われ、個人レベル、学校単位、行政等のさまざまな立場における視点・観点を検討できる生徒が多くなってきている。 |
| 次年度への改善点 |
| 新学習指導要領の導入、府への移管に備え、生徒・教員に負担がかからないように準備を進めていく必要がある。そのために、次年度に、新学習指導要領の理解を深めると同時に、府立学校としての要件を確認し、変更される点についてしっかりと理解し対応していく。<br>EdTech を活用することにより、個別最適化された学びを進め、学習内容の定着はもちろんのこと、課題探究型の授業をより効果的に実施できるように、カリキュラムの見直しを行う。<br>いじめや人権に関する意識向上を管理運営法人である大阪ＹＭＣＡのリソースを十分に生かしながら、生徒・教職員の意識向上に努める。<br>Child protection policy の定期的な見直し、計画的な職員オリエンテーションを行い、「安全で安心できる学校、教育環境の実現」の理解を深めていく。<br>学内外のリソースを最大限活用し、国際理解教育をより進めていく。 |

様式２

大阪市立水都国際高等学校　　令和２年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|---|---|---|
| 評価基準 | Ａ：目標を上回って達成した | Ｂ：目標どおりに達成した |
| | Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった | Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|---|
| **【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**<br>① 令和２年度末における授業アンケートで「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答える生徒の割合を全体の 70%以上にする。<br>② 令和２年度末における授業アンケートで「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。<br>③ 令和２年度末における授業アンケートで「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。<br>④ 令和２年度末におけるアンケートで「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答える生徒の割合を全体の 80%以上にする。<br>⑤ グローバル探究科として、国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を受け、教育を実践していく。<br>⑥ グローバル探究科として、IB のカリキュラムと学習指導要領とが両立するように、教育課程を編成し、実践していく。<br>⑦ 英語力の指標として、CFER の B2 レベルを目標に、英語以外の教科(数学・理科)においても英語を用いて授業を行うことで、生徒の英語力の伸長を目指す。<br>⑧ 各教科の学力以外の力、スキルも伸ばしていくために、指標として非認知スキルや、問題解決能力をはかる試験を行い、「非認知スキルまたは、問題解決能力」が伸びた生徒の割合を 80%以上にしていく。 | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|---|
| 取組内容①【施策５：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】<br>○　「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）の推進<br>本校の教育理念である３Ｅ（Encourage, Engage, Empower）をもとに、社会に貢献する協創力をみがく。<br>指標<br>・　中高合同の教員研修を学期に１回以上実施する。 | B |
| 取組内容②【施策６：国際社会において生き抜く力の育成】<br>○　英語教育の強化<br>英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において英語を用いた授業を実施する。<br>指標<br>・　授業を通して、英語を活用したプレゼンテーションを英語・数学・理科・グローバルスタディーズ（国際理解）等の各教科において実施する。 | A |
| 取組内容③【施策６：国際社会において生き抜く力の育成】<br>○　公設民営学校(国際バカロレア)の設置<br>自国の伝統文化に根ざした国際理解教育と外国語教育に重点を置き、授業では競争的な課題探究型学習を多く実施し、英語によるコミュニケーション能力、異なる文化や考えを理解し、多面的に深く志向する力、生涯にわたり学び続ける態度等育成していく。<br>指標<br>・　グローバル探究科としての各教科におけるカリキュラムの開発、実践を行っていき、大阪市内をはじめ多くの教育関係者に向けた研修会や授業公開、体験授業を年に３回以上実施する。 | B |
| 取組内容④【施策７：健康や体力を保持増進する力の育成】<br>○　健康に関する現代的課題への対応<br>健康に関する指導を推進するとともに、手洗いの励行などに日常指導を実施し感染症予防に努める。<br>指標<br>・　健康に関する指導の推進、並びに感染症等、生活習慣病、環境問題、心の健康、喫煙、飲酒、薬物についての正しい知識を身につけさせる体験型の取り組みを年に１回以上実施する。 | B |
| 取組内容⑤【施策８：施策を実現させていくための仕組みの推進】<br>○　校務負担を軽減するための環境整備<br>ICT の活用による学校経営の効率化、高度化や学校情報発信の促進、授業資料並びに定期試験や授業内の小テスト等の PC 上での実施を推進していく。<br>指標<br>・　会議資料、授業資料等の配布回収をネットワーク上で共有し、CBT(Computer Based Test)の形式での試験を年に１回以上実施する。 | A |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
| --- |
| 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】<br>・「授業について興味・関心・意欲が向上した」と答えた生徒の割合、「探究的な授業または、探究的な活動に自分も参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答えた生徒の割合、「ICT を用いた授業、あるいは活動に積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答えた生徒の割合について、目標とする割合を超えた。引き続き、新入生並びに、新しい教職員を迎えても目標に達成するように、取り組みを継続していく。<br>・「学校をつくっていく、ということに積極的に参加したと感じている」あるいは、「そう思う(大体そう思う)」と答えた生徒の割合は、目標を達成しなかった。これは、新型コロナウイルス感染症により、様々な学校行事や活動が制限された状況で、教育活動にも制限がかかっていたことから、学校としてもそのような機会をつくるとが難しかったためと考えている。<br>・新学習指導要領の研修(日・英)を実施している。また、中高共に教育委員会主催による新学習指導要領研修にオンライン等で参加し、より深い理解を進めている。<br>・IB 教育に関する教員研修(概念・教科)を実施している。12 月に TOK のインスクールワークショップを実施。日本人教員全員が参加し、資格を得た。TOK は、「総合的な探究の時間」で実施するため、学年団の日本人教員全員が担当できる状態にすることをめざしていた。研修のもう１つの成果として、教員は各自の授業に新しい視点を導入することができた。<br>・コロナ禍により通常授業を行うことができなかった期間もＩＣＴを駆使した教育環境を生徒に提供し、教育の担保を行った。<br>・外部団体主催の２つのイベントで、参加した生徒が表彰された。【せかい部、One World Festival for Youth】<br><br>【施策５：子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】<br>・中高合同の教員研修を実施した。また大阪市教育委員会の授業視察等を受け、その評価を得た。概ね全教科で高い評価を得ている。特にアクティブラーニングに関しては、高い評価を得ている。<br>・従来型の授業(パッシブラーニング)とアクティブラーニングのバランス、課題の量・質の再検証を行っている。実際に、科目間でのバランスや、課題量の調整を行い、生徒に過度の負担がかからないようになった。<br><br>【施策６：国際社会において生き抜く力の育成】<br>・各教科での英語によるプレゼンテーションまたアカデミックフェアなどでのプレゼンテーション、国際理解教育を進めるための学内ワークショップの開催など順調に進んでいる。２月に開催される大阪市教員対象の研修会の講師を本学の教員が務めた。<br><br>【施策７：健康や体力を保持増進する力の育成】<br>・コロナ感染予防学習も含め、予定通りの進捗状況である。<br><br>【施策８：施策を実現させていくための仕組みの推進】<br>・ＩＣＴを活用した学校運営及び授業（オンライン学習・ハイブリッド授業）をコロナ禍においても実施した。 |

| 次年度への改善点 |
| --- |
| ・高校 1 年生の 2 年生進級時のコース選択の方法、特に IB コースに進む基準の検討を引き続き行う。また、コース選択時に高校 3 年生および卒業後の進路等について明確に説明できるように制度や基準を設定し、運用していく。<br>・安心して学習していける、物理的・衛生的環境の維持に努める。<br>・アクティブラーニングと従来型の授業のバランスの検証を行いつつ、新しい入試制度への高いレベルでの対応を実現していく。<br>・令和 4 年度から開始される新学習指導要領への移行準備と、学内環境の整備を行う。<br>・プロジェクト型の学習を取り入れ、得た知識を活用していく取り組みや、プロジェクトを通して新たな知識・経験を獲得できるシステムを作る。学校全体で、教職員それぞれが得意分野を活かし、学び合うプラットフォームの構築をめざす。 |

（様式１）

大阪市立水都国際高等学校　　令和２年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標　≪教務部≫

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

高校２年生からは、グローバルコミュニケーションコース、グローバルサイエンスコースと IBDP コースの３コースがスタートし、向こう２年間のシラバスの作成、人員配置の原案の作成を実施していく。また、新学習指導要領以降に向けた準備を、本格的に開始していく。

IBDP に関しては、科目サーティフィケイトを含め、できるだけ多くの生徒が認定に向けて前向きに取り組めるように、環境整備を行っていく。

将来の大学入試制度の改変並びにそれに向けた e-ポートフォリオの運用等に関して、進路指導部とともに、準備を進めていく。

中期目標

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

組織的な学校運営を行い、生徒一人一人の実情に応じた教育手法並びにオンライン学習環境における教育手法を研究し、国際社会で活躍できる人材を育成していく教育活動の根底を固める。

多様なバックグラウンドの教員に、日本の公立学校としての評価方法や、新学習指導要領の内容等を周知する。

教員１人１人が実践したい教育活動を実現させていくために協力することで、自らのアイディアを生き生きと具現化する教員の姿を生徒に見せ、生徒たちにも前向きにかつ戦略的に実現したいことに取組める環境をつくる。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

① 各授業時数の確保並びに、生徒・教員にかかる負担を考慮しながら、年間行事予定を計画する。

② コース選択説明会や、コースの体験授業を計画し、より具体的に生徒が進路選択できるように、進路指導部と協力して進める。

③ 新学習指導要領以降に向けた教育課程の編成を検討する。

④ グローバル探究科として、次年度の学校設定科目の計画並びに準備を計画的に進める。

⑤ 成績処理並びに学籍管理システムの導入と、全教職員に向けた研修を実施する。

3　本年度の自己評価結果の総括

① コロナ禍においても生徒の学びを止めないようオンライン配信等 ICT を活用して授業を行った。また、授業時数の確保、生徒・教員にかかる負担を考慮しながら年間行事を精選し実施することができた。

② IBDP コースを含め、高校 2 年生の 3 コースの開講がスムーズになされた。

③ 上記 3 コースの開講時の経験を踏まえ、進路指導部と協力しながら、次年度選択者のコース選択説明会やコースの体験授業を実施した。

④ 新学習指導要領における教育課程の編成の検討を行い、教職員が原稿の教育課程から新課程に円滑な移行ができるように工夫している。

⑤ 成績処理及び学習管理システムを導入し、より効率的な運用のためのカスタマイズを行い、全教職員（外国人教員を含む）向けの教員研修が実施された。

（様式１）

大阪市立水都国際高等学校　　令和２年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標　≪生徒指導部≫

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

生徒指導部では、水都生としてより良く生活するための方針をまとめ、周知と呼びかけ、振り返りを行っていく。自由であることと共に、その背景にある責任や、一般社会における考え方やマナー、法律や条例等の説明したうえで、生徒自身に考えて行動してもらうように促している。昨年、生徒中心に半年かけて設立した生徒会組織は、新たな活動を行いながら、より細部まで創り上げていく。

中期目標

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

様々な背景を持つ生徒、教職員が本校の学校生活を通して共通のルール・マナーを守り、また本校ならではのルールを生徒主体で作成していくこと目標にしている。生徒が、学校の一部を創ることに直接かかわる機会を設け、自治の意識と決定のプロセスを直に経験できる仕組みを作っていく。

生徒会作成をはじめ、生徒一人一人が、学校を創り上げていく経験をすること、また、この経験を通して、協創力を磨いていくことを目標とする。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

①　一人一人の違いを認識し、許容し理解できるようにしていく。

②　学校独自の校則ではなく、社会におけるルールやマナーを自覚し、自分たちの行動を振り返るようにしていく。

③　自由と責任について考え、理解し、行動できるようにする。

④　生徒会組織を生徒と教職員で協働して進めていく。

3　本年度の自己評価結果の総括

生徒会組織として、GAPs、風紀、統括，SNS などの 4 つの組織を立ち上げ、統括チームを中心として年間計画などを策定した。GAPs チームについては、生徒と担当教員が話し合い、GAPs 立ち上げの申請フォームを作成したり、予算執行の手続きを円滑に進めたりすることができた。

大阪市立水都国際高等学校　　令和２年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1　学校運営の中期目標　≪進路指導部≫

現状と課題

本校は、国家戦略特区を活用した公設民営の手法による、日本で初めての中高一貫教育であり、大阪府の公立学校として国際バカロレア・ディプロマ・プログラム(IBDP)の認定を取得することができた。昨年に引き続き、英語・数学・理科・グローバルイシュー探究等の各教科において英語を用いた授業を実施していく。

社会に向けてどのようなことをしたいか、していきたいかを明確に持っている生徒もいる反面、まだ考え始めたところの生徒も存在している中で、まずは自己理解を深め自分に必要な経験やスキルを見極めていく時間を設ける必要がある。そのための、様々な職業に関する講話やキャリア教育を計画していく必要がある。

進路に関しては、海外大学に関しては、各国ごとの進学方法等、情報を収集していく必要がある。留学を希望し英語の運用能力を積極的に伸ばしていこうとする生徒も一定数存在しており、これらの生徒に対する進路指導をどのように実施していくかが課題となっている。

しかしながら、国内大学への進学希望者も少なくないことから、具体的な国内大学進学に向け、戦略的に生徒に合わせた進路指導を実践していく必要がある。

中期目標

**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】**

進学に関して、国内並びに各国の大学進学の方法や、費用等の詳細を把握し、進路指導の方針を創り上げていく。IBDP を活用した入試に関する情報や、世界の情勢を把握し、IBDP 認定後のシミュレーションを踏まえ、具体的な指導方法を検討していく。

上記と同時に、新しい大学入学共通テストに向けた準備や、対策を検討し教科ごとの模擬試験をはじめ、英語力をはかる外部試験や、科目外の知識やスキルをはかる外部試験等を実施し、学力面と精神面との両方を成長させる。

2　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

① 一人一人の違いを認識し、自分についてより深い理解を促していく。

② 自分の取り組みたいこと、チャレンジしたいことを発見していき、能動的に生徒が学習、協働していくための仕掛けづくりを教務部と協力して実践していく。

③ 日本の大学への推薦等の学内のルール策定を進めていく。

④ できるだけ多くの海外大学進学の情報を収集し、どのように進路指導をしていくかの方針を作成していく。

3　本年度の自己評価結果の総括

進路希望調査を複数回実施した。IB コース選択者においては IB スコア利用入試と総合型選抜利用の 2 軸が必要で、昨年に比べてより個に沿った進路指導を行った。しかし海外大学や国内 IB スコア入試などはコロナの情勢と相まって変化が目まぐるしいため、継続的にさらに細やかな進路指導が必要だと考えられる。

キャリアガイダンスでは外部企業や大学によるオンライン講演を複数回行い、生徒が持つ情報をアップデートしている。また国内大学の中から本校の教育目標と近い大学と連携をとり、オンラインで模擬授業を開催し、生徒の意欲関心が総合型・学校推薦型選抜で発揮されるよう紐付けを行った。一般選抜に向けた模擬試験受験などの回数は多くなかったため、次年度は、基礎言語能力と思考力のバランスを考えて、適切な模擬試験の配置が課題となる。

高等学校

# 令和２年度　　学校関係者評価報告書

大阪市立水都国際中学校・高等学校　学校協議会

## １　総括についての評価

- IBDP 認定校に相応しい実績を上げていることに敬意を表します。スキルの上達も予想以上で大変良かったと思います。
- 思い切った方針が今後に生きますよう期待しております。
- 中高一貫校ではあるが、現在の高校生はすべてが高 1 からの 3 年間で進路決定をしなければならず、前を歩く先輩卒業生がいない為、メンタルケア（オンライン個別面談やスクールカウンセラー）、保健室、職員室との距離が近いことは生徒の大きな支えとなっていると考えます。
- 公設民営の手法による IB 認定校として、英語での授業、アクティブラーニング、ICT の活用など本校の教育理念は高く評価する。TOEFL Junior の結果が本校の取り組みの成果であると考えます。
- 今年度の上半期は、新型コロナウィルスの発生・拡大によって全国的に学校閉鎖が実施された。休校中の子どもたちの学習・生活状況にみられる困難や、またオンライによる遠隔教育の実施など今までに経験したことのないような状況下で教育活動が行われた。そうした状況の中でも本校の教職員が、一人ひとりの生徒に充実した学習環境を提供するために取り組んだ努力は高く評価されるべきであろう。
- 今年でやっと 3 年目、学力の方はメキメキ成果を上げていらっしゃるし、子どもの夢や希望が膨らんできていますね。とにかく南港で歴史を作って下さい。10 年先、20 年先が、とても楽しみです。先生方の努力と生徒１人１人に対する対応が素晴らしいと思います。

## ２　年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- いじめ（ないと思っていますが）に対して、教職員、生徒、一人ひとりが、意識向上を図っていらっしゃるので、安心できると思います。
- おおむね目標を達成していると考えられる。学校施設は子どもや教職員のだけではなく、地域の多くの人が集まる場であることを踏まえ、安全性や快適性などの機能を高めることが必要である。震災や津波など、児童の安全な教育環境を確保するためにさらに強化して取り組んで欲しい。
- C 評価もありますが、基本的には現状のやり方を進めることが評価の向上につながると思います。
- TOK を通して養われている批判的思考力は道徳心・社会性の育成に結びついていると考える。

| |
|---|
| ・　高等部はより広い地域からバラエティに富む背景の生徒が集まってきているので、人権教育を地道に取り組んでいることを高く評価します。 |
| 年度目標：**【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】** |
| ・　中等部と交流しながら、TV 出演や外部からの期待に応えつつ新しい自分たちの学校を作ることを通じて、自己実現の基盤を各自取り組んでいると考えます。（ハロウィンパーティの日、高校生が盛り上げているのを見て頼もしく思いました。）<br>・　普段から一人ひとりが TOK や課題解決、アクティブラーニングを通して受身ではなく、主体的に行動することが求められる校風は教務部、進路指導部の設定する課題に対し向き合う基盤を養っていると感じます。<br>・　コロナ禍の中、軌道修正が大変だったのではないかと思います。ご苦労様でした。<br>・　IB コースだけでなく、国内大学へ進学する生徒への進路指導を通じて自分の将来を考える人間づくりにつながると期待する。<br>・　高い評価には教職員の大きな努力があったものと存じます。<br>・　おおむね目標を達成していると考えられる。<br>・　現在国際機関の OECD などによって世界的に教育に求められる子どもの「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、教員の指導法や IT 学習機材の利用について協働して取り組む必要があろう。今後も学習のあり方や指導方法の工夫・改善を学校全体で検討し、また地域との連携をとりながら生徒が個性を開花し、学びの喜びを実感できる教育環境の構築が求められる。<br>・　生徒自身が中高一貫教育の特色が生かされた学校教育が送ることが出来ると頑張っているので未来への目標は多いに評価できます。<br>・　英語力は目標を設定し努力していく姿が素晴らしいと思います。授業について興味、関心、意欲が向上しているとのこと、大いに頑張ってほしいと思います。 |

3　今後の学校園の運営についての意見

| |
|---|
| ・　現在地域の方々のクレームもよく聞きます。挨拶はしない（こちらがしても）。登校時についても、道いっぱいに広がっているためお年寄りには歩きにくい。勉強ばかりではなく、地域との繋がりも大切ですので、地域の不協和音が学校の繁栄にも響きますので、ご指導お願いします。<br>・　各目標の取り組みが充実していることは高く評価されよう。<br>・　今年度はオリンピック・パラリンピックなどが新型ウィルスの影響で中止を余儀なくされた。学校でも様々なスポーツや文化イベントが中止になってしまったことは大変残念なことである。ポスト・コロナを見越して引き続き関連する取り組みの再開と充実化に向けての取り組みを進めて欲しい。<br>・　本校の教育の重要な柱の一つである、IBDP のさらなる整備拡大に期待したい。また英語による ICT 機器の使用ならびにプログラミングのスキルの学習は、子どもの家庭環境によって能力に格差が生じると思われる。その点を配慮してすべての子どもたちが平等な教育を受けることができる指導・環境の確立をさらに検討して欲しい。 |

- 高卒後の海外大学への留学に関しては、水都独自の奨学金制度を考える必要はないのか。行政サイドとの折衝も必要だろうが、「水都サポーター」を広く呼びかけ、留学生基金として少なくとも 1～2 億円を持つことを目標にされてはどうか。
- 国内大学への進学結果も学校評価・人気の指標になると考える。
- 高等部から中等部の保護者、生徒への校内オープンスクール的な発信があると、次に入ってくる中等部希望者へも伝わっていくのではないかと考えます。設立すぐで、バカロレア認定やコロナ対応等充分お忙しいのは承知しているので、長期的に検討していただけるとありがたいです。先生方自らが課題や困難に対してすぐ解決法を探して実践されている点は、生徒を何よりも励まして挑戦し続けるモデルとなっていると考えます。